

2 研究の実際

(1) 学習指導要領改訂から見た外国語科の考え方

ア 外国語科の目標

新学習指導要領において、外国語科の「目標」は次のように記されています。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

現行学習指導要領の「聞くこと」「話すこと」に加え、新学習指導要領では、「読むこと」「書くこと」の言語活動が追加されました。ただし、この「読むこと」「書くこと」は、音声や基本的な表現に十分に慣れ親しんでいることが前提であることから、本研究では、「聞くこと」「話すこと」と深く関わるクラスルームイングリッシュに焦点を当てます。

イ 各言語の目標（小学校外国語（5・6年）の第2 各言語の目標から）

新学習指導要領において、「各言語の目標（1）聞くこと」には次のように記されています。

(1) 聞くこと

ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。

イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。

ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。 ※ 下線は著者による。

この「目標」には、「ゆっくりはっきりと話されれば」と条件が付けられており、「ゆっくりはっきり話す」場面が「聞くこと」の力を身に付けるために必要であることが分かります。このため、指導者による「ゆっくりはっきりとしたクラスルームイングリッシュ」がとても重要であると考えます。

また、「各言語の目標（3）話すこと」には次のように記されています。

(3) 話すこと [やり取り]

ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。

イ 日常生活に関する事柄について、自分の気持ちや考えなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。

新学習指導要領では、「話すこと」が [やり取り] と [発表] の2領域に分かれました。[やり取り] については、「その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする」という点で、これまでの外国語活動と大きく異なります。「その場」とは、相手とのやり取りの際、それまでの学習や経験で蓄積した英語での話す力・聞く力を駆使して、自分の力で質問したり答えたりすることができるようになることを指しています。本研究では、「話すこと [やり取り]」に重点を置き、自分の考えや気持ちを英語で伝え合おうとする児童の育成を目指しました。また、児童同士による [やり取り] もクラスルームイングリッシュとして捉え、活用の在り方を探りました。

(2) 実態調査

佐賀県の小学校教員を対象に外国語活動に関する教師の意識調査を行いました。

(対象者：H29 年度小学校教員英語指導力向上研修受講者 156 人 実施日：平成 29 年 7 月 21 日)

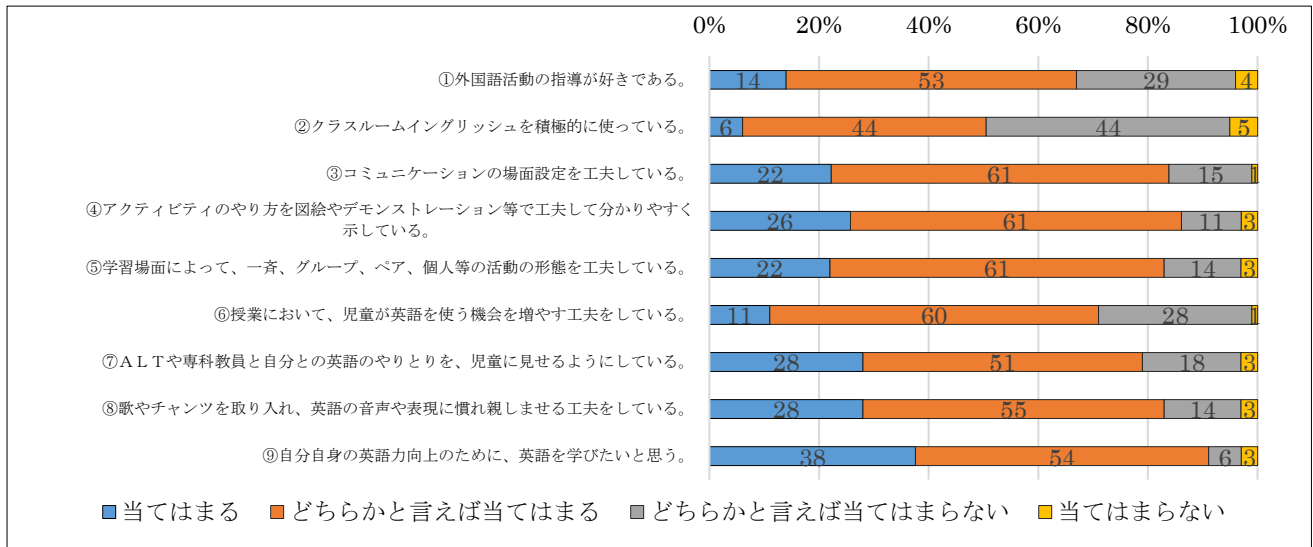


図 1 教師意識調査結果 (①～⑨)

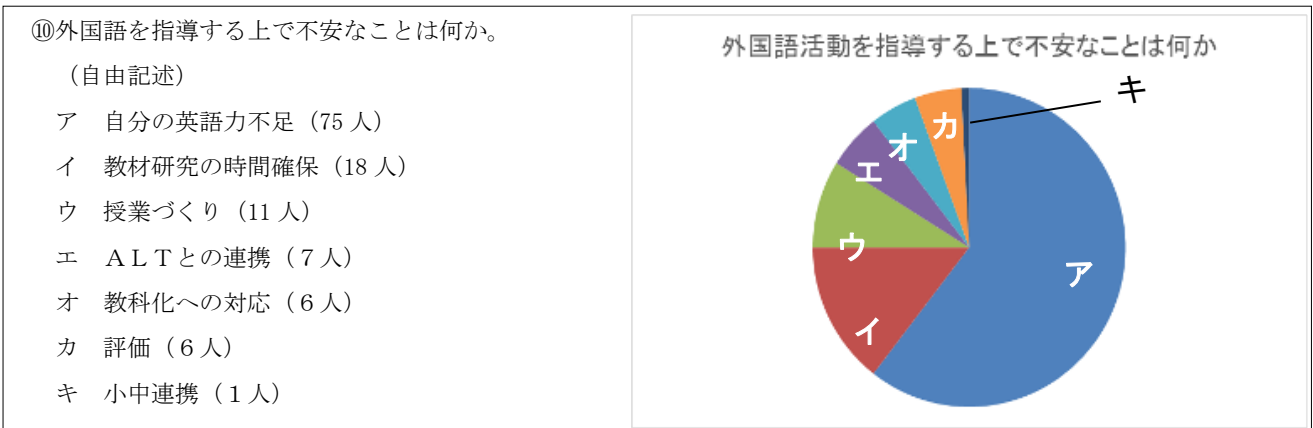


図 2 教師意識調査結果 (⑩)

質問③～⑧は授業中における指導の工夫についての質問です。質問⑥以外は、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」が8割程度ありました。しかし、クラスルームイングリッシュを積極的に使っている教師は50%であること(質問②)、児童が英語を使う機会を増やす工夫をしている教師は71%にとどまっていること(質問⑥)から、授業中の「英語の使用量」が十分でないことがうかがえました(図1)。

また、質問⑩の自由記述では「自分の英語力不足」が最も多く、「自分の英語表現が正しいのか自信がない」「単語がとっさに出てこない」「発音が合っているか不安」など、英語力への不安から、教師が授業中の英語の使用に消極的になっていることが分かりました(図2)。

そこで、クラスルームイングリッシュを一覧にして学校全体で共有することは、外国語科を指導する上での不安を軽減する手立ての一つになると考えました。クラスルームイングリッシュを一覧にして毎時間使うことで、教師自身が英語表現に慣れ親しみ、自信を持つようになると思います。「外国語活動が好き」と答えた教師は67%にとどまっていますが(質問①)、一方で「英語を学びたい」と思っている教師は92%いることから(質問⑨)教師自身が英語表現に慣れ、自信を持つようになることが、外国語科の指導への意欲につながっていくと考えます。

(3) 本研究におけるクラスルームイングリッシュの活用

児童が英語表現に慣れ親しむために、まず、「『聞くこと』におけるクラスルームイングリッシュの活用」を指導に取り入れ、次に「『話すこと [やり取り]』におけるクラスルームイングリッシュの活用」を図りました。

ア 「聞くこと」におけるクラスルームイングリッシュの活用

ここでは、次の(ア)から(ウ)の3つの手立てを取り入れました。

(ア) 繰り返し聞かせ、内容を類推させる。

「内容があり」かつ「場面と一致した」クラスルームイングリッシュを繰り返し聞かせ、「内容が分かった(類推できた)」という経験を何度もさせていくことが重要であると考えます。そこで、本研究では、授業で使うクラスルームイングリッシュを児童用ワークシートとして一覧(資料1、資料2)にし、毎時間、分かるようになったクラスルームイングリッシュに○を付けさせ、児童の理解度を把握しました。

クラスルームイングリッシュ			
①～⑳は先生たちが、授業中によく使う英語です。			
①	Let's start English class.	⑪	Here you are.
②	How do we say () in English?	⑫	Give them a big hand.
③	What's the date today?	⑬	Open your Hi.friends to page ().
④	Today's goal is... 1, 2 ().	⑭	Go back to your seat.
⑤	Raise your hand.	⑮	Make pairs.
⑥	Put your hands down.	⑯	That's right.
⑦	Take out your pencil.	⑰	Well done.
⑧	Write your number and name.	⑱	Let's do JANKEN.
⑨	Listen carefully.	⑲	Let's sing a song.
⑩	Any volunteers?	⑳	Clear your desk.

資料1 クラスルームイングリッシュ一覧(英語)

クラスルームイングリッシュ			
①～⑳は先生たちが、授業中によく使う英語の日本語の意味です。			
①	英語の授業をはじめましょう。	⑪	はい、どうぞ。
②	[]のことを、英語でなんと言うでしょう。	⑫	大きな拍手をしよう。
③	今日は、何日でしょう？	⑬	ハイフレンズの[]ページを開けよう。
④	今日のめあては・・・1, 2 []。	⑭	席にもどろう。
⑤	手をあげて。	⑮	ペア(二人組)をつくって。
⑥	手をおろして。	⑯	そのとおり。
⑦	えんぴつを出して。	⑰	すばらしい。
⑧	番号と名前を書いて。	⑱	じゃんけんをしよう。
⑨	よく聞いて。	⑲	歌を歌おう。
⑩	だれか、やってみませんか？	⑳	机の上をかたづけて。

資料2 クラスルームイングリッシュ一覧(日本語)

(イ) 聞き取れたことを称賛する。

児童が英語を聞き取り反応したときはすぐに褒め、英語が少しでも聞き取れたという経験を積み重ねることが大切です。そこで本研究では、褒めるときにクラスルームイングリッシュ一覧の⑩ “That’s right.” ⑪ “Well done.” やその他にも “Good job.” “Nice.” など児童同士が容易に使用できる英語表現を用いました。

(ウ) 目的を持って聞く場面を設定する。

児童に目的を持たせてクラスルームイングリッシュを聞かせる場面を授業の中に設定することが大切です。本研究では、動物に関する絵本や歌、チャンツ等を聞く際に、「どんな動物が出てくるか、よく聞いてみよう」や「どんな順番で出てきたかを、絵本を読み終わった後に質問するよ」などの課題を設定したり、アクティビティの説明を英語で行い、児童に聞かなければ活動ができないという「英語を聞く必然性」を持たせたりしました。

イ 「話すこと [やり取り]」におけるクラスルームイングリッシュの活用

次に、「話すこと [やり取り]」におけるクラスルームイングリッシュを活用した指導として、3つの手立てを取り入れました。

(ア) 教師が英語を話すモデルになる。

授業中は、教師自らが英語を話す身近なモデルになります。そのため「間違えてもいいから英語を使うことが大切」という雰囲気を作ることが重要です。本研究では、「目を見て」「はっきりした声で」「相手の言ったことに反応しながら」英語を話そうとする姿勢や、ジェスチャーを使いながら何とかして伝えようとする様子をモデルとして示しました。

(イ) 児童に「自分が伝えたい内容」を持たせる。

機械的な反復練習ではなく、児童にとって「自分が伝えたい内容」を持たせ、それを伝えるために必要な表現を練習するようにします。相手意識や目的意識を明確にした、意味のある活動を設定すれば、児童は「英語で伝えたい」と意欲を高めるようになると思います。

(ウ) 既習表現を繰り返し使わせる。

英語表現の定着のために、既習表現を繰り返し授業で用いることが大切です。本研究では、授業の始めに行う挨拶 (“How are you?” “I’m good.” など) を使うことはもちろん、それ以外にも Mingle (歓談する) 活動として、自由に動き回りその日のトピックについて、既習表現を使ったやり取りを行う活動を毎時間取り入れました。ALTがいる場合は「教師とALT」での英語のやり取りをモデルとして見せ、教師と児童、児童同士など様々な相手とやり取りができるように仕組みました。

(4) 授業実践**実践事例【小学校第6学年】**



単元名 When is your birthday? (友だちの誕生日を調べよう) (*Hi, friends!* 2 pp.6-9)



本時の目標 誕生日を尋ねたり答えたりしながら、友達と進んで関わろうとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

本時の展開 (4/4時間)

過程	学習活動	クラスルームイングリッシュ 数字は前頁資料1の①～⑳の番号 *は前頁資料1にはないもの	教師の働き掛け (○) ◆…評価 (方法) △…手立て 児童が使う主な英語
出 合 う	1 挨拶の後、Mingle活動をしながら既習表現の質問をし合う。	①Let’s start English class. * Hello everyone. * How are you? * I’m good.	○挨拶を交わし、児童を英語の世界へと誘うために既習の表現を使った歌や質問をした。

<p>※ Mingleとは、「 ①混じる、②歓 談する」という 意味で、ここで は②を指す。</p> <p>2 本時のめあてを ／ 知る。 楽 3 “Twelve Month” し を歌う。 む 4 “Keyword game” をしながら前時を 振り返る。</p> <p>／ 関 5 「自分のクラス わ は何月生まれの友 り 達が多いのか」を 合 予想する。 う 6 「Birthday Card を渡そう」を行う。</p>	<p>* Please take out Mingle card. * When you listen to the music, please back to your seat. ⑭ Go back to your seat. * Today’s Lucky color is (). ⑮ Raise your hand. ⑯ Put your hands down. ⑰ Well done. ⑱ Give him a big hand. ⑲ Here you are. ⑳ Take out your pencil. ㉑ Write your number and name. ㉒ How do we say (6月) in English? ㉓ That’s right. ㉔ What’s the date today? ㉕ Today’s goal is (). * Stand up please. ㉖ Let’s sing a song.</p> <p>* OK! We’ll do “DOG & HAMBUR- GER” ㉗ Make pairs. * So today’s key word is (). ㉘ Listen carefully.</p>  <p>“DOG & HAMBURGER”で 手を握り合う児童</p> <p>* Please look at your worksheet, No.4. * I’ll give you 10 seconds,10,9,8,7... * Time is up. * I’ll give you these cards. * Please ask me my birthday.</p>	 <p>英語によるやり取りをしている 児童</p> <p>○本時のめあてを提示した。</p> <p>○はっきりと発話させ、声のウォ ームアップを図った。</p> <p>○前時までに学んだ月の名前や 序数の英語表現の確認を “Keyword game”を通して行っ た。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November, December, 1st, 2nd, 3rd, 4th,...</p> </div> <p>○意識して聞く活動を授業の中 に必ず入れるため、この時間 は、英語を聞いて反応する “Keyword game”を取り入れた。</p> <p>○何月生まれの児童が多いかを 予想させ、ワークシートに書く ように指示した。</p> <p>○“When is your birthday?” のやり取りを代表児童とデモ</p>
---	--	--

	<p>*When is your birthday? *My birthday is ~. *We will do demonstration. ⑩Any volunteers? *This is a help card.</p>	<p>ンストレーションを行った。 カード渡しが始まったら、積極的に英語表現を使っている児童を称賛した。</p>
	<p>【「Birthday Card を渡そう」の進め方】 ①配られたカードに自分の誕生日と似顔絵を書き込ませ、教師が回収した後、ばらばらにして児童に再度配付する。 ②“When is your birthday?”と友達に尋ねながら、配られたカードに書かれた誕生日の友達を探す。 ③カードに書かれた誕生日の友達が見付かったら、自分の名前を書いて渡し、自分がもらったカードは黒板に貼る。 ④終わった児童は、まだ活動をしている児童のやり取りを聞いたり、困っている児童の応援をしたりする。</p>	 <p>教師と代表児童とのデモンストレーションの様子</p>
<p>7 “Birthday Calendar”を作る。</p> <p>／ 振 り 返 る</p> <p>8 振り返りをする。 9 挨拶をする。</p>	 <p>学級の“Birthday Calendar”を作っている児童の様子</p> <p>⑫Give him a big hand.</p> <p>*That all for today. *You did a good job. *Thank you very much everyone. *You're welcome. See you.</p>	<p>When is your birthday? My birthday is ~.</p> <p>◆誕生日を尋ねたり答えたりする英語表現を使いながら、友達と進んで関わろうとしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 (行動観察・発言・振り返りカードの点検) △英語表現が分からずに困ったときには、“Help card”を使っているように、前もって伝えておいた。“Help card”を示した児童には、ヒントを与えたり、友達と一緒に言わせたりして、安心感を与えられるようにし、相手に関わろうとしている態度を評価し、関わりへの自信を高めるようにした。</p> <p>○「何月生まれが多いか」の予想を当てた児童を確認した。 ○「学級の“Birthday Calendar”」が完成した喜びを共有させ“Happy Birthday”を歌うように指示した。 ○気付いたことの振り返りを数人の児童に発表させた。 ○本時の児童の頑張りを褒め、終わりの挨拶をした。</p>

(5) 授業実践における手立ての有効性についての考察

本単元では、「『聞くこと』におけるクラスルームイングリッシュの活用」「『話すこと[やり取り]』におけるクラスルームイングリッシュの活用」を手立てとして取り入れました。

授業後に児童に対して「①～⑳のクラスルームイングリッシュ（3頁資料1、3頁資料2）を聞いて、どう思いましたか（複数回答可）」と尋ねた結果、58%の児童が、「少しずつ分かるようになった」と回答しました（図5）。

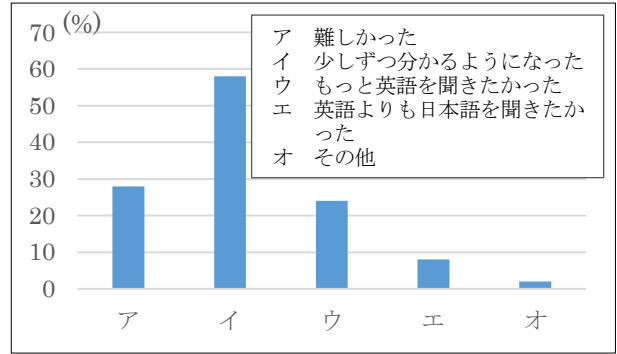


図5 クラスルームイングリッシュを聞いた感想

毎時間使用した「振り返りシート」を見ると、A児は1時目に2個のクラスルームイングリッシュが聞こえたと記述していましたが、4時目には10個に増えていました（資料3、資料4）。

これらのことから、繰り返しクラスルームイングリッシュを聞かせたことで、児童は授業を重ねるごとに英語表現が少しずつ分かるようになってきたと考えます。

1 ①～⑳のクラスルームイングリッシュの中で、聞こえてきた番号に○をしよう。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ 今日、全部で (2) 個、聞こえました。

2 今日のめあて
June 15th 日へ英語で話しかける

3 「4 あてはまる 3 ややあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 あてはまらない」の中の1つの数字に○をつけよう。

① 今日の授業は楽しかった。 ④ ③ ② ①
② 先生や友達の英語を聞いて、反応することができた。 ④ ③ ② ①
③ 英語を、はっきりと声に出すことができた。 ④ ③ ② ①
④ 英語を使って、友達と楽しくコミュニケーションをとることができた。 ④ ③ ② ①

4 今日の感想を書こう。(めあてを意識してがんばったこと、できるようになったこと、うれしかったことなど)

今日かみはたこと(10)はんのうにたがいったがをまくこと
をかんがえたい えらい!! よく聞くことはとても大切
です!

A児が1時目に「聞こえました」と答えたクラスルームイングリッシュは2個でした。

資料3 A児の1時目の振り返りシートの記述

1 ①～⑳のクラスルームイングリッシュの中で、聞こえてきた番号に○をしよう。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ 今日、全部で (10) 個、聞こえました。

2 今日のめあて
June 30th 英語で毎日話しかける

3 何月生まれの人が、一番多いかを予想しよう。

6年 2 組は (12) 月生まれの人が、一番多いと思います。

4 「4 あてはまる 3 ややあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 あてはまらない」の中の1つの数字に○をつけよう。

① 今日の授業は楽しかった。 ④ ③ ② ①
② 先生や友達の英語を聞いて、反応することができた。 ④ ③ ② ①
③ 英語を、はっきりと声に出すことができた。 ④ ③ ② ①
④ 英語を使って、友達と楽しくコミュニケーションをとることができた。 ④ ③ ② ①

5 今日の感想を書こう。(めあてを意識してがんばったこと、できるようになったこと、うれしかったことなど)

きいといふとかんがいはいたった 川で遊ぶ先生が喜んでくれたのでみんなが嬉し
いからたて
も英語のじやうをしたいです 先生も、もっといよに勉強したかったら
1ヶ月間、ありがとう。

4時目に、「聞こえました」と答えたクラスルームイングリッシュは10個に増えました!

資料4 A児の4時目の振り返りシートの記述

(6) 実態調査の結果を基にした手立ての有効性についての考察

本研究の仮説の検証の視点は、以下のとおりです。2つの実態調査の結果から分析します。

検証1 類推しながら聞いたり話したりすることができたか。

検証2 自分の考えや気持ちを英語で伝え合おうとしていたか。

ア アンケートⅠ（授業の振り返りシートより）

授業の振り返りシートから、以下のグラフのように「4 当てはまる」について、①、③、④で大きな伸びが見られました（図3）。

毎時間、次の①～④の項目で、「4 当てはまる」「3 やや当てはまる」「2 あまり当てはまらない」「1 当てはまらない」を選択させました。

- ①今日の授業は楽しかった。
- ②先生の英語を聞いて、反応することができた。
- ③英語をはっきりと声に出すことができた。
- ④英語を使って、友達と楽しくコミュニケーションをとることができた。

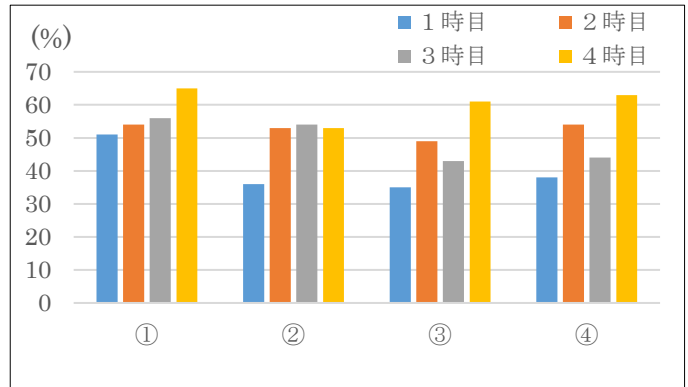


図3 児童の振り返りシートの結果

イ アンケートⅡ（検証授業の事前・事後アンケート）

検証授業の事前・事後アンケートから、児童の変容を探りました（表1、図4）。

表1 児童を対象にした事前・事後アンケート結果

A…とても当てはまる B…まあまあ当てはまる C…あまり当てはまらない D…当てはまらない (%)

	事前				事後			
	A	B	C	D	A	B	C	D
①外国語活動が楽しみですか。	53.2	39.0	7.8	0.0	74.0	20.8	5.2	0.0
②いろいろな友達と関わりながら活動しようとしていますか。	42.9	49.4	7.8	0.0	61.0	33.8	5.2	0.0
③先生や友達の英語が分かりますか。	29.9	51.9	18.2	0.0	58.4	39.0	5.2	0.0
④分からないときに“Sorry?” “Pardon?”等と言うことができますか。	6.5	36.4	33.8	23.4	27.3	33.8	20.8	18.2
⑤相手が言ったことに対し“OK.” “Me too.”等の言葉や態度で反応することができますか	35.1	31.2	18.2	15.6	37.7	51.9	6.5	3.9
⑥簡単な英語やジェスチャーを使って伝えていますか。	27.3	31.2	36.4	5.2	55.8	20.8	19.5	3.9
⑦自分のよさやがんばりに気付き、自信が付いてきましたか。	29.9	39.0	23.4	7.8	45.5	33.8	19.5	1.3
⑧友達のよさやがんばりに気付き、受け入れていますか。	61.0	28.6	10.4	0.0	71.4	26.0	2.6	0.0
⑨外国語活動を通して、友達や先生のことを分かり、もっと仲良くなろうとしていますか。	55.8	31.2	13.0	0.0	68.8	31.2	0.0	0.0

(実施日：平成29年6月1日〔事前〕と7月14日〔事後〕、対象者：6年生77人)

図4の数値については、「とても当てはまる」「まあまあ当てはまる」を合計した数の割合(%)

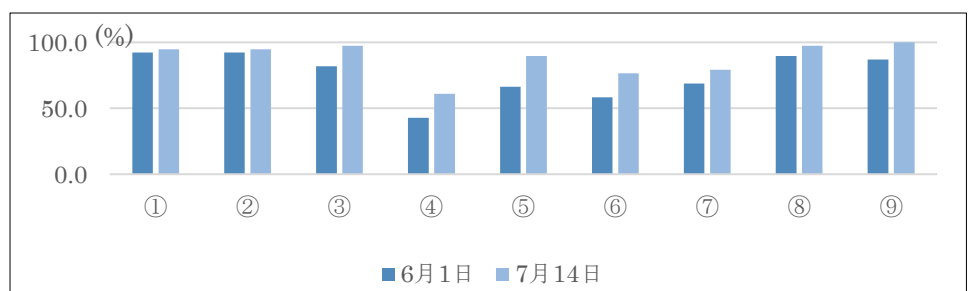


図4 事前・事後アンケート結果の比較

ウ 検証

○検証 1 類推しながら聞いたり話したりすることができたか。

アンケートⅠ（授業の振り返りアンケート）より

- | | | | | |
|--------------------------|------|---|------|--------|
| I② 先生の英語を聞いて、反応することができた。 | 約36% | → | 約53% | (+17%) |
| I③ 英語をはっきりと声に出すことができた。 | 約35% | → | 約61% | (+26%) |

アンケートⅡ（検証授業事前事後アンケート）より

- | | | | | |
|-----------------------------|-------|---|-------|----------|
| Ⅱ③ 先生や友達の英語が分かりますか。 | 81.8% | → | 97.4% | (+15.6%) |
| Ⅱ⑥ 簡単な英語やジェスチャーを使って伝えていますか。 | 57.5% | → | 76.6% | (+19.1%) |

I②、Ⅱ③の結果から、英語を類推しながら聞くことができる児童が増えたことが分かります。増えた理由として2つ考えられます。1つ目は、検証授業の4回中、ALTとのチームティーチングによる授業が3回ありましたが、その中で英語表現を使ってALTとやり取りをする場面を繰り返し児童に聞かせたこと、2つ目は、毎時間、教師が英語を使って児童に指示を出したり、質問を投げ掛けたりしたことです。例えば、ワークシートにその日の月日を書かせるときに、月の名前を児童から引き出すために“**How do you say 6月 in English?**”と尋ねると児童が“**June**”と声に出すといった具合です。毎時間、このやり取りを繰り返したことで、英語だけを聞いて反応することができるようになりました。このように、クラスルームイングリッシュを児童と共有し、英語表現を繰り返し聞かせたことで聞く力が身に付いたと考察されます。さらに、英語を聞く力は、I③、Ⅱ⑥の結果のように、英語を声に出すことにもつながっていくことが分かりました。

以上のことから、クラスルームイングリッシュを使う場面を多く設定し児童に十分な英語表現を慣れ親しませたことで、類推しながら聞いたり話したりすることができるようになったと考えます。

○検証 2 自分の考えや気持ちを英語で伝え合おうとしていたか。

アンケートⅠ（授業の振り返りアンケート）より

- | | | | | |
|-------------------------------------|------|---|------|--------|
| I④ 英語を使って、友達と楽しくコミュニケーションをとることができた。 | 約38% | → | 約63% | (+25%) |
|-------------------------------------|------|---|------|--------|

アンケートⅡ（検証授業の事前・事後アンケート）より

- | | | | | |
|--|-------|---|--------|----------|
| Ⅱ① 外国語活動が楽しみですか。 | 92.2% | → | 94.8% | (+ 2.6%) |
| Ⅱ④ 分からないときに“Sorry?” “Pardon?”等と言うことができますか。 | 42.9% | → | 61.1% | (+19.2%) |
| Ⅱ⑤ “OK.” “Me too.”等の言葉や態度で反応することができますか。 | 66.3% | → | 89.6% | (+23.3%) |
| Ⅱ⑨ 外国語活動を通して、友達や先生のこと分かり、もっと仲良くなろうとしていますか。 | 87.0% | → | 100.0% | (+13.0%) |

I④の結果を見ると、英語を使ったコミュニケーションを楽しむことができている児童が+25%に増えています。また、Ⅱ④やⅡ⑤の結果から“Sorry?” “Pardon?”や“OK.” “Me too.”等の言葉や態度で反応することができるようになるなど、自分の考えや気持ちを英語表現に乗せて伝え合おうとする児童が増えました。さらに、このことが、Ⅱ⑨のように100%の児童が、外国語活動を通して友達や先生のこと分かり、もっと仲良くなろうとする意欲や態度を持つという結果になったと考えられます。このように、技能的な力が身に付いたことは、児童のやり取りの自信につながり、英語を使ったコミュニケーションを取る楽しさに結び付いていったと考察します。

以上のことから、クラスルームイングリッシュを活用し、児童に十分な英語表現を慣れ親しませたことで、自分の考えや気持ちを英語で伝え合おうとする児童を育成することができたと考えます。